

稲・大豆作情報 (NO. 5)

1. 水稲作況情報田の生育概況(7月29日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本 年 平 年 平年比	70.5 76.3 (92)	368 374 (98)	11.5 11.7 (+0.2)	37.5 40.5 (-3.0)	今週も高温多照少雨で推移した。 草丈は「さがびより」は平年並みだが、その他やや低い。茎数は「ヒヨクモチ」で多くなっている。葉齢は「夢しずく」「ヒヨクモチ」で平年よりやや多く推移している。 葉色は全品種平年よりやや淡い。 「夢しずく」は下位節間長50~70mm。
さがびより 小城市芦刈町	6/21 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	67.9 68.1 (100)	472 482 (98)	11.4 11.8 (-0.4)	38.9 40.5 (-1.6)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/29 19.3株/m ²	本 年 平 年 平年比	42.8 46.7 (92)	703 601 (117)	11.7 11.5 (+0.2)	42.0 42.7 (-0.7)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

<参考> 佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報(抜粋)(7月30日調査)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく	6/18 19.6株/m ²	本 年 平 年 平年比	70.6 72.2 (98)	373 426 (88)	11.2 11.6 (-0.4)	39.3 39.0 (+0.3)	【草丈】「夢しずく」、「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は平年並み。「さがびより」はやや低い。 【茎数】「夢しずく」は少ない。その他は平年より多い。 【葉齢】「ヒノヒカリ」はやや進んでいる。他の品種はやや遅れている。 【葉色】「夢しずく」「ヒノヒカリ」はやや濃い。「さがびより」はやや淡い。「ヒヨクモチ」は平年並み。
ヒノヒカリ	6/18 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	66.9 67.3 (99)	572 533 (107)	11.8 11.6 (+0.2)	40.3 39.8 (+0.5)	
さがびより	6/21 16.7株/m ²	本 年 平 年 平年比	63.1 65.9 (96)	586 544 (108)	11.2 11.7 (-0.5)	39.3 40.0 (-0.9)	
ヒヨクモチ	6/21 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	57.4 58.4 (98)	891 810 (110)	12.0 12.3 (-0.3)	40.3 40.5 (-0.2)	

2. 水稲管理

**生育ステージに応じ、適正水管理を行う。
また穂肥についても診断基準に従い、時機を失ないように施用する。**

○水管理

- ・「夢しずく」はすでに幼穂形成期に達しているため、強い水分ストレスを与えないよう 間断灌水を励行し、湿潤状態を保つ。
- ・中晩生種は、中干し時期となっている。中干しを実施していない圃場は右表を参考に、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度まで実施する。高温・乾燥で予想以上に中干しが進むこともあるので、随時確認しながら行う。

品種	目標 穂数 本/㎡	有効茎数（中干し時期）	
		50 株/坪 (15.2 本/㎡)	60 株/坪 (18.2 本/㎡)
さがびより	370	25 本/株	21 本/株
ヒヨクモチ	440	29 本/株	24 本/株

- ・ただ既に中干ししている圃場で、高温と乾燥により白乾状態となっている圃場が見受けられる。このまま一気に水を溜めると根の活力が低下し、下葉枯れを助長するため、まず走り水を行い、その後は間断灌水とする。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～ 夢しずく

- ・幼穂長が 1～2mm の圃場は、下表を参考に穂肥を施用する。

【平坦部での夢しずく穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	2.0	12.5
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施 用 し な い			
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施 用 し な い			
80cm以上	施 用 し な い					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

ヒノヒカリ

- ・まもなく、幼穂形成期となり、**8月上旬頃**に穂肥施用になると思われる。

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20~24日	1~2mm	3.0	18.8
	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	3.0	18.8
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	2.0	12.5
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下	6.3以下

さがびより

- ・「さがびより」では、**8月中旬（お盆頃）**に穂肥施用になると思われる。
- ・施用時期は幼穂長5~10mmが基準。5mmに達したのを確認し施用する。

★新基準 H29~★ さがびより診断基準

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18~20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38~40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40~41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施用しない			
80cm以上	3.8以下	39以下	16~18日	10~15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施用しない			

さがびより旧診断基準 (※中山間地域参考)

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18~20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33~37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37~38	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	39以上	施用しない			
75~80cm	3.0以下	36以下	16~18日	10~15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

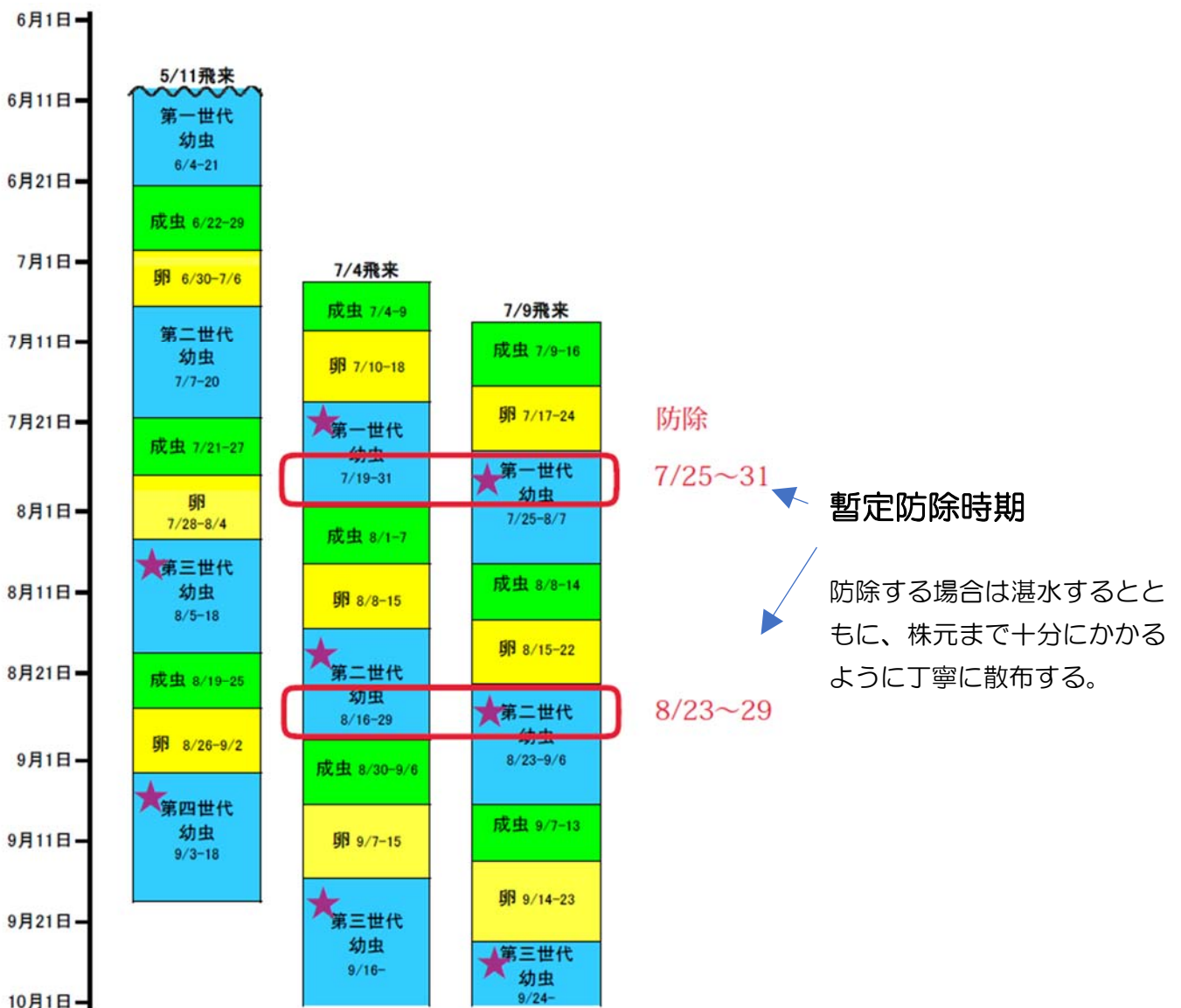
○病害虫情報(発生および防除)

- ・今年のトビイロウンカは、3 飛来（5月11日、7月4日、7月9日）が確認されており、飛来量は平年並みで、飛来の中では7月9日がやや多い。
- ・7月29日調査において、平坦部の一部圃場でウンカ類の幼虫 0.1～0.4 頭/株が確認された。
- ・ただ移植時期や品種によっては、より多く発生している可能性があり、さらに今年は高温少雨で経過しているため、トビイロウンカが急増する場合もある。今後もそれぞれで発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- ・農業技術防除センターより7月26日に作成された最新発生予測図は右図のとおり（7/14 発信情報に変更なし）。

なおこの発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、以下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にしてください。

防除効果が高い時期は、幼虫心化揃い期（各幼虫期の前半（図中 ★））である。

有効薬剤：スタークル・エクシード・エミリア など



トビイロウンカの発生予測図（7/26 作成）

3. 大豆管理 ～ 生育に応じ適正管理を ～

播種時期により圃場ごとに様々な生育となっている。
気象予報を注視し、適正管理を行いましょ。

○生育状況

- 6月下旬～7月初旬播種 本葉1～5枚
7月上中旬播種 初生葉～本葉2葉
※同じ播種時期でも、土壌水分の有無や降雨の有無で生育は異なる。

○播種・再播種

まだ播種されていない、または再播種される圃場では土壌水分、天気を考慮した播種を行う。
既に土壌が乾燥している場合は、降雨後や入水により一定の土壌水分とした後に播種する。

・播種量

時期	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
7月26日～	27本	75×11×2	8.0	BB480を40kg/10a (窒素成分5kg/10a) 生育量確保のため行う

・播種深度

播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

💡 順調な出芽となるよう土壌水分の確保ができる作業体系も！
播種後、晴天が続く予報の場合、気温が高い昼間の耕起を避け、夜間播種＋鎮圧で
できる限り土壌水分の蒸散が抑制できる作業を心がけ、出芽までの土壌水分の確保を行う。

○培土

- ・出芽した大豆は、以下の目安を参考に、雑草防除や生育確保のため、培土を実施する。

○実施時期の目安

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
- 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。

※現在、降雨がなく“干ばつ”傾向で推移している。
培土は大豆栽培上重要な作業の一つであるが、気温が高い時刻の作業は土壌水分の蒸散を助長する可能性があるため、夕方以降の作業が望ましい。



1回目の培土時期の目安

令和3年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業改良普及センター

